

## 第8期みらいくる会議第4回会議 概要

令和5年8月2日(水) 午後2時～4時 区役所第1委員会室

出席者 みらいくる会議委員 出席11名 欠席4名

区：千代田清掃事務所 所長 各係長 担当職員

### 議事内容

#### ① 議事

- ・食品ロス削減推進計画の策定について
- ・不適正廃棄物の最新データの提供

#### ② 報告

- ・災害廃棄物処理基本計画について
- ・一般廃棄物処理基本計画の改定について
- ・事業系有料ごみ処理券の料金改定について

#### ③ その他 事務連絡

### 会議の主な内容及び意見

#### ① 議事

##### (1) 食品ロス削減推進計画の策定について

食品ロスの削減が国際的にも重要な課題になっている。国においても食品ロスの削減の推進に関する法律が施行されている。都においても計画を策定しているところである。区においても、国の基本方針や都の計画を踏まえ計画を策定することとなった。策定にあたっては色々な方々から意見を聞きながら進める。

みらいくる会議には素案を策定した時点でお示しして、ご意見をいただきたい。

委員：どうしても、食べきるようぴったりに作ることはできないから、食品ロスは出てしまうのだけれど、理想的な目標を掲げて、それに向かっていくことは良いことだと思う。

区：食品を無駄にしない意識の醸成が大切と考える。その意識の醸成に於いて小さいときからの教育的な取り組みができるような計画にしたい。

委員：日本は自然災害が多いのでやはり備蓄が必要だが、それが無駄にならずにうまく循環していくと良い。

区：ご家庭での備蓄でも同様な状況ではと想定しており、区ではフードドライブをイベントに合わせてやってきたが、計画のなかで常設の窓口を区役所とか施設に設置して、いつでも回収できる拠点を設けることを検討している。

委員：災害時にはやはり自治体に頼らざるを得ない経験をした。自治体等で所有している備蓄物資をシステム上で見える化をして、食品のストック情報が目に見えるようになっていれば慌てずにできたと思う。食品のストック情報が目に見えるような仕組みが必要ではないか。食品ロスについても、この仕組みを活用できるのではないか。

委員：同感。食品ロスについては可視化とマッチングするためのプラットフォームの構築が非常に有効。民間では備蓄物資からビールを作ったりするプロジェクトがあるが、運送費がかかるとかで捨てていることも多いと思う。備蓄物資の処分方法を区が主導してやってもらえると良い。

委員：町会でも区の補助をもらって備蓄物資を購入しているが、期限が近いものをイベントの際に住民に配付している。無駄にならないように持って行ける場所を区からアナウンスしてもらえると良い。

委員：マンションにボックスを設けて不要なものを入れ、必要な人が持っていくような形ができれば、小さいエリアでは回るが、大きいエリアでどう回していくかが必要で、その視点を計画にぜひ盛り込んでほしい。

委員：飲食店の食べ残しとかもこの計画に入ってくるのか。飲食店では少量のごみにそこまで厳格にされてもというのが現状のようだ。また食べ残しの持ち帰りも安全性の問題から拒否されることもある。そういったことも加味して計画を策定して欲しい。

委員：すべてを食品として回せればよいが、なかなか難しい。ほかの形態で肥料や飼料、エネルギーで、ガスとか電気とかを含め広く対応していかないと、食べるだけで（食品ロス）ゼロは難しいと思う。

区：食べるだけで回すのは難しいと思う。区でも学校給食の残飯は飼料・肥料にしている。

また、マッチングということではシェアリングシステムの導入を検討している。アプリの使用も考えている。

委員：食品ロスをほかに付け回ししているだけにならないようにしないといけない。ちゃんと有効活用しないといけない。健康面にも考慮した活用をしてほしい。

委員：千代田区はマンション住まいの方が多いため、管理組合を通して情宣をすると効果的なのでは。また日本語版だけでなく、外国人向けに多言語化が必要では。

区：この件に関し、意見、情報がありましたら、ぜひ区にお知らせください。

## （２）不適正廃棄物の最新データの提供

最新データを追加した、燃やすごみ、燃やさないごみの別に事業系、家庭系別の不適正ごみの内訳とその９年間の推移を資料により説明。

委員：不適正廃棄物の量の増減はわかるが、全体のごみの量における割合が重要ではないか。今後パーセンテージを示していただけるようお願いする。

委員：年度において、急増している年があったりするが、その原因は何なのか。

区：どうしても抽出調査なので、そのようなことが発生してしまうようだ。

委員：燃やすごみの中のプラごみはどう判断するのか。

区：汚れているプラごみは燃やすごみなので、その判断は調査員の判断になる。

委員：減ったことはわかるが、その原因がわからないので、みらいくる会議の側からこういう対策をしたらとの意見は出せない。ただし、これだけ不適正廃棄物が捨てられている実情はわかったので、見逃すことはできないと思う。

区：食品ロス削減の調査の関係で、詳しい組成割合の調査を行っている。ちゃんと分別することで再資源化・脱炭素につながると思う。

不適正廃棄物についていえば、家庭系ごみであれば家庭での意識醸成が、事業系ごみであれば事業者への指導が行き渡ればと考えている。

委員：市販のものは今、ほとんど容器に入って販売されている。利便性には代えられない。企業、住民、我々のような会議体と一緒に、その仕組み自体を変えることを考えていかないと難しいのではないか。

委員：何かしらやったほうがいいのは間違いない。学生、低学年の子供に手伝ってもらおうと教育という観点からインパクトが大きい。将来を担っていく子どもたちの意識が高まって、大人になってもらえば。

新しい取り組みを考えていく意味でも、この不適正廃棄物についてはデータを取ってもらうようにしてほしい。

区：パーセンテージ等も含めて、検討していく。

## ② 報告

### (1) 災害廃棄物処理基本計画について

みらいくる会議でも意見をいただいた災害廃棄物処理基本計画が策定されたので報告する。

災害時の廃棄物処理ということをイメージしていただくために、先般浸水被害があった姉妹都市の秋田県五城目町に区から、災害廃棄物処理の応援に行った。その時の様子を撮影した動画があるので紹介する。

委員：泥汚れのついた家電リサイクル法の対象家電ですが、リサイクル施設で受け入れしてもらえたのでしょうか。汚れていると引き取らないという話があって、場合によっては洗ったりしている可能性があるようだが。

区：情報があればお伝えする。

委員：新聞報道で東日本大震災の例によると東京都で3.5倍の災害廃棄物が出るとのことだが、外濠以外に廃棄物の仮置き場の予定地はないのか。

区：外濠に集積する以前の地区集積場や応急集積所は想定しているが計画として指定はされていない。災害の状況に応じて区が指定するかたちになる。また外濠にすべて滞留するわけではなく時系列的に処理されて流れていく。足りる足らないの議論を今後

内部で検討を進めていく。

委員：最悪の状態を想定して我々は取り組んでいく必要があると思う。

### (2) 一般廃棄物処理基本計画の改定について

現在第4次の一般廃棄物処理基本計画の計画期間中で令和7年度までの計画である。この計画は平成29年度12月の策定なので、今年度から改定に取り組み令和5年度、6年度の2か年かけて計画を見直していく予定である。

改定の際は、みらいくる会議からも意見をいただきながら進めたいと考えている。

### (3) 事業系有料ごみ処理券の料金改定について

事業系のごみは有料で収集処理を行っていて、捨てる場合には有料ごみ処理券を貼ってもらっている。その料金は前回平成29年10月に改定しているが、6年ぶりに改定し、10月から値上げをする。

## 3 その他

### ・今回のまとめ

不適正廃棄物については、情報の出し方とか原因とかを検討いただき、また今後、食品ロスについて、細かい情報としてのデータが出てくるようなので、我々も議論できるような形で出していただけるようお願いしたい。

食品ロスについて、食べ物は自分事化しやすい事柄なので、区だけで勝手にやっているということにならずに、子供・学生を巻き込んで、こういった意識を認識してもらい一緒に何か、千代田区モデルのようなものが作っていったらいいし、我々もそれを支援していったらよいと思う。

### ・その他質疑・意見

委員：プラ新法に対応して、千代田区でなにか計画していることはあるのか。

区：区は他に先駆けてプラごみを分別収集しているので、新たに何かやることは現在考えていない。ここからどう展開していくのかはまた検討していきたいし、工夫できるところは工夫していきたい。

委員：ごみの収集に関連して、排出者のほうでちゃんと分別しているが、運搬者や処理施設のせいなのか、一緒くたにして持ってってしまうことがある。

委員：受け入れる側のほうの整備ができてから分別の啓発をしないと、折角分別しても無駄になってしまうこともあるのでは。

委員：両方一緒にやるのがいいと思うが、コストの問題や予算の問題がある。

こういう動きが広まれば、業者もそれを酌みとって対応していくようになるのではないだろうか。

委員：消費者からの要望による利便性の追求もあるが、企業のほうも、もっと意識の変

革がないとプラスチックごみの削減はできない。消費者の意識の向上と企業の努力が必要。

委員：一人一人の意識の問題、大人には周知を、子供には教育を。異常気象とかにも関連する問題だと思う。

委員：子供向けの分別のPR動画とかを作ってはどうか。

区：子供の教育に関しては、イベントの際に分別クイズを実施している。好評である。意識の高い子供もいると思った。

委員：子供を通して、大人が学ぶということは多いと思う。子供から大人に伝えたほうが素直に受け入れられる。教育機関が手分けして、そうした教育を進めるのかよいのでは。そうすることで今までの利便性に向いていたベクトルが変わるのではないかと思う。

委員：こども食堂は8月が学校の休みで給食がないので需要が大変多いようだ。食品ロスもお互いに融通するシステムができれば、そういうところにも回るのでは。

委員：区でそういう仕組みを作ればよい。我々も意見だけを出して終わりではなく、何か形にできるものがないといけないと思っている。

委員：区報とかで、余った食品の集めていることを周知してくれると良いのではないか。アプリとか作って、早くこうした情報を出せるようにして、区民に知らせられると良い。

### ③ その他

次回の予定を周知

終了